

基準5 準学士課程の教育課程・教育方法

評価の視点

5-1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。

観点5-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。

【留意点】

○ 観点1-2-②の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。

関係法令（設）第15条、第16条、第17条、第17条の2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 ■ 配置している	◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料 資料5-1-1-(1)-01 「授業科目の配置状況がわかる資料」		
(2) 一般教育の充実に配慮しているか。 ■ 配慮している	◇配慮していることがわかる資料 資料5-1-1-(2)-01 「一般教育と専門教育がくさび形に配分している資料」 資料5-1-1-(2)-02 「一般教育の充実に配慮している資料」 一般科目は、主に1～3学年の低学年に多く配置し、4、5学年でも選択科目として配置するなど一般科目の充実の配慮を行っている		
(3) 進級に関する規定を整備しているか。 ■ 整備している	◇進級に関する規定の整備状況がわかる資料 資料5-1-1-(3)-01 「進級に関する規定がわかる資料」		
(4) 1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。 ■ 確保している	◇35週が確保されている状況が確認できる資料（学年暦等。） 資料5-1-1-(4)-01 「35週が確保されていることがわかる資料（H31行事予定表）」 資料5-1-1-(4)-02 「35週が確保されていることがわかる資料（H31各曜日の時間数の表）」 年間を通じた授業および定期試験等を実施する期間は、教職員および学生に配布される資料により確認することができる。		
(5) 特別活動を90単位時間以上実施しているか。 ■ 実施している	◇特別活動の実施状況がわかる資料（学年暦等。） 資料5-1-1-(5)-01 「特別活動を90単位時間以上実施していることがわかる資料（H31特別活動予定表）」 教務主事・主事補、地域連携センター人材育成部門と各学年のクラス担任が協力して計画立案している		

観点5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。

【留意点】

- 例えば、国際的に活躍できる技術者の養成が目的に含まれる場合には、外国語の伝達と読解の基礎能力育成について分析するなど、目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして授業科目の内容の工夫を行っているか分析すること。
- この観点では教育課程の編成について分析するものであり、正規の教育課程とは別に実施しているもの（例えば、補習や補講等。）は、この観点の対象ではないことに留意すること。

関係法令（設）第19条、第20条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（該当する選択肢にチェック■する。）	◇チェックした配慮項目に関して、実施状況がわかる資料		
□ 他学科の授業科目の履修を認定			
■ インターンシップによる単位認定	資料5-1-2-(1)-01 「インターンシップによる単位認定がわかる資料（要項R2学生便覧p100-105）」		
	資料5-1-2-(1)-02 「インターンシップによる単位認定がわかる資料（教育課程表R2学生便覧p37-43）」		
	資料5-1-2-(1)-03 「インターンシップによる単位認定がわかる資料（R2WEBシラバス）」		
	資料5-1-2-(1)-04 「インターンシップ（実績、単位認定）がわかる資料」		
	本校の教育目的に基づいたディプロマ・ポリシーに照らして、長期休業を利用した4学年の夏季休業インターンシップを実施しており、規定の条件を満たした学生には、単位を認定している		
□ 正規の教育課程に関わる補充教育の実施			
□ 専攻科課程教育との連携			
■ 外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成	資料5-1-2-(1)-05 「外国語基礎能力の育成がわかる資料（教育課程表R2学生便覧p31）」		
	資料5-1-2-(1)-06 「外国語基礎能力の育成がわかる資料（要項R2学生便覧p116-119）」		
	外国語の基礎能力の育成として、1～4学年に対しては英語を通年の必修科目、5学年には語学演習と工業英語を設定している		
■ 資格取得に関する教育	資料5-1-2-(1)-07 「資格取得に関する教育がわかる資料（R2webシラバスTOEIC対策1）」		
	資料5-1-2-(1)-08 「資格取得に関する教育がわかる資料（H31webシラバスTOEIC対策2）」		
	資料5-1-2-(1)-09 「資格取得に関する教育がわかる資料（要項R2学生便覧p97-99）」		
	資料5-1-2-(1)-10 「資格取得に関する教育がわかる資料（TOEIC資格取得）」		
	資料5-1-2-(1)-11 「資格取得に関する教育がわかる資料（TOEIC試験実施案内）」		

観点5-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。

【留意点】

- 創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、PBL型の授業や創造型の演習等における具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。
- 創造力を育む教育方法の工夫については、学校としてどう捉え、どう展開しているかを踏まえて分析すること。
- 実践力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、インターンシップの活用等の具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。

(注) PBLとは、プロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法のこと。Problem-based Learning 又は Project-based Learning の略。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。 ■ 行っている	◇創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（PBL型の授業や創造型の演習の実施等）		
	資料5-1-3-(1)-01「創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（H31webシラバス総合工学Ⅰ）」		
	資料5-1-3-(1)-02「創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（H31webシラバス総合工学Ⅱ）」		
	資料5-1-3-(1)-03「創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（H31webシラバス総合工学Ⅲ）」		
	資料5-1-3-(1)-04「創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（H31webシラバス総合工学Ⅳ）」		
	教育課程は、基本教育目標に対応して創造性を磨くカリキュラム体系となるように設定されている。特に、学年縦断型科目である「総合工学Ⅰ～Ⅳ」では、グループワークによる問題解決型課題を、企業との連携による事前事後学習と組み合わせることで、効果的かつ体系的に創造性を育む取り組みを実施している（資料5-1-3-(1)-01～04）。なお、「総合工学Ⅰ～Ⅳ」のシラバスは全コース同じである		
	資料5-1-3-(1)-05「高専生サミットの周知がわかる資料」		
	「高専生サミット」において学生自身が提案したテーマに、教員のサポートのもと取り組むことにより、学生が自ら考え問題解決するエンジニアリングデザイン力を身につけている（※右URL参照）	https://biosummit.pr.tsuruoka-nct.ac.jp/	
	◇実施状況がわかる資料		
	資料5-1-3-(1)-06「実施状況がわかる資料（総合工学Ⅰ授業計画）」		
	資料5-1-3-(1)-07「実施状況がわかる資料（総合工学Ⅱ授業計画）」		
資料5-1-3-(1)-08「実施状況がわかる資料（総合工学Ⅲ授業計画）」			
資料5-1-3-(1)-09「実施状況がわかる資料（総合工学Ⅵ授業計画）」			
資料5-1-3-(1)-10「実施状況がわかる資料（高専生サミット資料）」			
資料5-1-3-(1)-11「実施状況がわかる資料（高専生サミット参加実績資料）」			

	<p>◆工夫を行った結果、学生が創造力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。</p> <p>資料5-1-3-(1)-12 「学生が想像力を発揮しあげた成果がわかる資料（ビジネスプランコンテスト入賞記事）」</p> <p>資料5-1-3-(1)-13 「高専生サミット研究発表がわかる資料（山形新聞記事）」</p> <p>資料5-1-3-(1)-14 「高専生サミット研究発表がわかる資料（荘内日報新聞記事）」</p> <p>資料5-1-3-(1)-15 「学生が想像力を発揮しあげた成果がわかる資料（学会発表、学生の受賞一覧など）」</p> <p>総合工学のPBL型授業において優れた取り組みを提案したグループには、課外時間における教員のサポートのもと、外部機関の主催するコンテストに応募している。特に、鶴岡市の主催するビジネスプランコンテストにおいて、廃棄農作物の有効利用を提案したグループが最優秀賞を受賞したことは特筆すべき成果である。創造力を養った学生は、高専生サミットで積極的に発表を行っている。</p> <p>また、卒業研究において積極的な取り組みを展開し、学会発表を積極的に行っている。近年では学会賞を受賞する学生が増加傾向にあり、その成果が現れている。</p>	
<p>(2) 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。</p> <p>■ 行っている</p>	<p>◇実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（インターンシップの実施等。）</p> <p>資料5-1-3-(2)-01 「実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（校長企業向け依頼状）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-02 「実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（H31webインターンシップシラバス）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-03 「実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（事前指導）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-04 「実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（COOP実施要項）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-05 「実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料（COOP実施資料）」</p> <p>各コースで、実践力を育む教育方法としてインターンシップを実施している。インターンシップに参加前の事前指導としては、卒業生から3年生に対してインターシップ講演会を実施している。4学年の夏季休業中に多くの学生が参加できるよう企業へ要請して受入れ先を確保し、クラス担任が積極的に参加を働きかけている。また、インターンシップをさらに発展させ、企業と学校の双方向のフィードバックによる効果的な実習プログラムとしてCO-OP教育を行っており、意欲の高い学生と企業を効果的に連携させることに成功している。</p> <p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料5-1-3-(2)-06 「実施状況がわかる資料（インターンシップ実績①）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-07 「実施状況がわかる資料（インターンシップ実績②）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-08 「実施状況がわかる資料（インターンシップ実績③）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-09 「実施状況がわかる資料（CO-OP実習報告会資料）」</p> <p>資料5-1-3-(2)-10 「実施状況がわかる資料（CO-OP参加者集計資料）」</p>	<p>資料「実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料(CO-OP教育)」 http://coop.tsuruoka-nct.ac.jp/cooperative_education/</p>

◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。		
資料5-1-3-(2)-11「インターシップ実習評価」		
本校では、インターシップによる実践力を育む教育を実施して約70%の学生は参加している。企業からの実習証明書からもわかるように学生自身の取り組みに対して高い評価が得られている。資料5-1-3-(2)-11 「インターシップ実習評価」さらに、CO-OP教育では年間数10名の学生が参加している。一部の学生は最終的には就職につながっている学生もいる。		

5-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

本校では、国際交流活動も精力的に行っている。特色としては、学年に応じて適切なプログラムのマッチングを行っている点である。具体的には、1,2年次の学生には比較的治安の良いシンガポールへの留学、3,4年次の学生にはニュージーランドにてホームステイ型の語学実習プログラム、5年次には研究実習型のプログラムで連携校に学生を派遣している。本校では25%の学生が在学中に海外留学を経験しており、山形県内の高等教育機関では突出した数字（次点以下は10%に満たない）となっている。

https://kokusai.tsuruoka-nct.ac.jp/	鶴岡高専HP（国際交流支援室）
資料5-1特記事項「国際交流参加者集計資料」	

評価の視点

5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。

【留意点】

なし。

関係法令（設）第17条の2

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ■ 採用されている	◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料 資料5-2-1-(1)-01「授業形態の開講状況がわかる資料」 ◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。 各コースとも、低学年（1年～3年）は講義：約90%、演習：約3%、実験・実習：約7%、高学年（4年～5年）は講義：約60%、演習：約10%、実験・実習：約30%に設定されている。このことから、座学で得た知識を演習により深め、実験・実習で体験として身に付ける授業形態となっており、適切である。		

(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。(該当する選択肢にチェック■する。) <input checked="" type="checkbox"/> 教材の工夫 <input type="checkbox"/> 少人数教育 <input checked="" type="checkbox"/> 対話・討論型授業 <input type="checkbox"/> フィールド型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 情報機器の活用 <input checked="" type="checkbox"/> 基礎学力不足の学生に対する配慮 <input type="checkbox"/> 一般科目と専門科目との連携 <input checked="" type="checkbox"/> その他	◇チェックした項目の実施状況がわかる資料		
	資料5-2-1-(2)-01 「教材の工夫and対話討論型授業」		
	資料5-2-1-(2)-01 「教材の工夫and対話討論型授業」		再掲
	資料5-2-1-(2)-02 「情報機器活用に関する講義資料（情報リテラシー）」		
	資料5-2-1-(2)-03 「学力不足の学生に対する配慮がわかる資料（学習支援体制がわかる資料）」		
	本校では、自学自習を行うための学習支援体制を設定している。学生は、この学習支援体制の時間に授業における質問をはじめ学業や学校生活全般に関する質問、相談あるいは個人的な指導等を受けることもできる ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。 資料5-2-1-(2)-04 「スチューデント・アシスタント実施要領」 本校では、専攻科の学生が低学年の学生の学習を指導するSA（スチューデントアシスタント）制度を導入して学習支援の一助とし、さまざまな学力の学生に対応できる多様な学習指導上の工夫に取り組んでいる。		

観点5-2-2-② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【留意点】
なし。

関係法令（設）第17条、第17条の3

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（該当する選択肢にチェック■する。） <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目名 <input checked="" type="checkbox"/> 単位数 <input checked="" type="checkbox"/> 授業形態 <input checked="" type="checkbox"/> 対象学年 <input checked="" type="checkbox"/> 担当教員名 <input checked="" type="checkbox"/> 教育目標等との関係 <input checked="" type="checkbox"/> 達成目標 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方法 <input checked="" type="checkbox"/> 教育内容（1授業時間ごとに記載） <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価方法・基準 <input checked="" type="checkbox"/> 事前に行う準備学習	◇シラバスの作成要領や具体例等の左記内容がわかる資料		
	資料5-2-2-(1)-01 「シラバス作成要領がわかる資料（講習会メール）」		
	資料5-2-2-(1)-02 「シラバス作成要領がわかる資料（シラバス入力要項）」		
	資料5-2-2-(1)-03 「webシラバス(サンプル)」		

<p>■ 高等専門学校設置基準第17条第3項の規定に基づく授業科目が、4項の規定に基づく授業科目かの区別の明示</p> <p>■ 教科書・参考文献</p> <p>□ その他</p>	<p>教員は、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、年1回以上開催されるシラバス作成研修会に参加し作成している。シラバスには、開講時期、必修・選択科目の区別、単位数、担当教員名及び授業の概要、達成目標と評価方法、学習・教育目標との対応を記している。学生はシラバスにより授業項目と内容の記載から、毎回の授業内容を確認することで、理解度も把握できる。履修上の注意及び自学上の注意には、学習上の注意事項が書かれ、参考図書から関連専門知識を自習できる。授業科目系統図での関連科目も分かり、総合評価には具体的評価方法が記載されている。</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容（項目）を記述する。</p>		
<p>(2) 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。</p> <p>■ 改善を行っている</p>	<p>◇活用状況がわかる資料</p> <p>資料5-2-2-(2)-01 「学生のシラバス活用状況を把握していることがわかる資料 (R2学生アンケート) 」</p> <p>資料5-2-2-(2)-02 「教員のシラバス活用状況を把握していることがわかる資料 (R2教員授業点検アンケート) 」</p> <p>学生・教員の活用状況については、授業アンケート結果によって把握される仕組みとなっている</p> <p>◆改善を行った事例があれば、改善内容について、資料を基に記述する。</p>		
<p>(3) 設置基準第17条第3項の30単位時間授業では1単位当たり30時間を確保しているか。</p> <p>■ 確保している</p>	<p>◇状況が確認できる資料（学年暦、時間割等。）</p> <p>資料5-2-2-(3)-01 「30単位時間授業を確保していることがわかる資料 (H31行事予定表) 」</p> <p>資料5-2-2-(3)-02 「30単位時間授業を確保していることがわかる資料 (H31授業実施時間数) 」</p> <p>資料5-2-2-(3)-03 「30単位時間授業を確保していることがわかる資料 (H31前期時間割表) 」</p> <p>資料5-2-2-(3)-04 「30単位時間授業を確保していることがわかる資料 (H31後期時間割表) 」</p>		
<p>(4) (3)の30単位時間授業では、1単位時間を50分としているか。</p> <p>■ 1単位時間 = 50分で規定、45分で運用</p>	<p>◆1単位時間を50分以外で運用している場合は、標準50分に相当する教育内容を確保していることについて、学校の現状を踏まえ、資料を基に記述する。</p> <p>90分授業にすることで出欠確認、教材や機器の準備、片付けに要する時間を短縮することができる。さらに、出席を取る回数を減らし、前回の復習時間の短縮をすることで100分相当の教育内容を確保できるようになっている。</p>		

(5) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて45時間であることを明示しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 明示している	◇シラバス集、履修要項等の明示状況がわかる資料		
	資料5-2-2-(5)-01 「学修単位科目の履修時間が明示されている資料 (R2学生便覧P13-14)」		
	資料5-2-2-(5)-02 「学修単位科目の履修時間が明示されている資料 (R2webシラバス)」		
(6) (5)の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。(該当する選択肢にチェック <input checked="" type="checkbox"/> する。) <input checked="" type="checkbox"/> 授業外学習の必要性の周知 <input checked="" type="checkbox"/> 事前学習の徹底 <input checked="" type="checkbox"/> 事後展開学習の徹底 <input checked="" type="checkbox"/> 授業外学習の時間の把握 <input type="checkbox"/> その他	◇チェックした方策の具体的な内容がわかる資料		
	資料5-2-2-(6)-01 「授業外学習の必要性の周知がわかる資料 (R2学生便覧P14)」		
	資料5-2-2-(6)-02 「授業外学習・事前学習・事後展開学習の周知・徹底がわかる資料(教務主事メール)」		
	資料5-2-2-(6)-03 「事前学習・事後展開学習の徹底がわかる資料 (R2webシラバス)」		
	資料5-2-2-(6)-02 「授業外学習・事前学習・事後展開学習の周知・徹底がわかる資料(教務主事メール)」		再掲
	資料5-2-2-(6)-03 「事前学習・事後展開学習の徹底がわかる資料 (R2webシラバス)」		再掲
	資料5-2-2-(6)-02 「授業外学習・事前学習・事後展開学習の周知・徹底がわかる資料(教務主事メール)」		再掲
	資料5-2-2-(6)-04 「授業外学習の時間の把握がわかる資料 (R2教員授業点検アンケート)」		
◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。			
5-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。			

<p>評価の視点</p> <p>5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。</p>				
<p>観点5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。</p>				
<p>【留意点】</p> <p>なし。</p>				
<p>関係法令（設）第17条の3</p>				
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>				
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲	
<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p>■ 策定している</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規程等の該当箇所</p> <p>資料5-3-1-(1)-01 「学業成績評価ならびに進級・卒業認定に関する規定（R2学生便覧P66-71）」</p>			
	<p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p>■ 行っている</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p> <p>資料5-3-1-(2)-01 「成績評価が適切に評価されていることがわかる資料（◆実地審査閲覧資料）」</p> <p>資料5-3-1-(2)-02 「成績評価が適切に評価されていることがわかる資料（◆実地審査閲覧資料）」</p>		
<p>(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p>■ 把握している</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p> <p>資料5-3-1-(3)-01 「評価がシラバス記載どおり実施されていることを把握する資料（R2webシラバス）」</p> <p>資料5-3-1-(3)-02 「評価がシラバス記載どおり実施されていることを把握する資料（R2学生アンケート）」</p> <p>資料5-3-1-(3)-03 「評価がシラバス記載どおり実施されていることを把握する資料（R2教員授業点検アンケート）」</p>			
	<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p>■ 周知している</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p> <p>資料5-3-1-(4)-01 「成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知していることがわかる資料（R2学生便覧P66-71）」</p> <p>資料5-3-1-(4)-02 「成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知していることがわかる（R2教務ガイダンス資料）」</p>		
	<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>■ 把握している</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p> <p>資料5-3-1-(5)-01 「成績評価や単位認定について、学生の認知状況が明示されている資料（R2学生アンケート）」</p>		

<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料</p> <p>資料5-3-1-(6)-01 「追試、再試の成績評価の規定等が明示されている資料 (R2学生便覧P66)」</p>		
<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。</p> <p>■ ある</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規程等がわかる資料</p> <p>資料5-3-1-(7)-01 「成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会がわかる資料 (H31年度答案返却記載の時間割前期末試験)」</p> <p>資料5-3-1-(7)-02 「成績評価結果に関する学生から意見申立の機会があることがわかる資料 (H31年度答案返却記載の時間割学年末試験)」</p> <p>資料5-3-1-(7)-03 「成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があることがわかる (R2教務ガイダンス資料)」</p> <p>資料5-3-1-(7)-04 「成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があることがわかる (R2行事予定表)」</p>		
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/> 成績評価の妥当性の事後チェック</p> <p>■ 答案の返却</p> <p>■ 模範解答や採点基準の提示</p> <p><input type="checkbox"/> G P A の進級判定への利用</p> <p>■ 成績分布のガイドラインの設定</p> <p>■ 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> 試験問題のレベルが適切であることのチェック</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p>	<p>資料5-3-1-(8)-01 「答案返却がわかる資料 (H31年度答案返却記載の時間割前期末試験)」</p> <p>資料5-3-1-(8)-02 「答案返却がわかる資料 (H31年度答案返却記載の時間割学年末試験)」</p> <p>資料5-3-1-(8)-03 「答案返却がわかる資料 (R2教員授業点検アンケート)」</p> <p>資料5-3-1-(8)-04 「模範解答の提示がわかる資料 (保存シートチェックシート)」</p> <p>資料5-3-1-(8)-05 「模範解答の提示がわかる資料 (追認試験保存シートチェックシート)」</p> <p>資料5-3-1-(8)-06 「模範解答の提示がわかる資料 (R2教員授業点検アンケート)」</p> <p>資料5-3-1-(8)-07 「成績評価上のガイドラインの設定がわかる資料 (◆実地審査閲覧資料)」</p> <p>資料5-3-1-(8)-08 「複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことがわかる資料 (R2教員授業点検アンケート)」</p>		

	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。</p>		
	<p>答案は前期末と学年末試験後に設けられている答案返却期間で返却している。 教育点検委員会では、保存資料提出日を設定し、教員自らが、委員に直接提出することになっている。その際保存資料チェックシートをもとにシラバスどおりの成績評価、成績評価の保存資料、模範解答をチェックしている。また、同時に複数年度で同一試験問題を出题していないかを口頭で確認している。複数年度の問題出題については、教員授業点検アンケートにおいても同様にチェックを行っている。 教務委員会では、成績分布のガイドラインの設定し、各科目の平均点の差が極端に大きくならないように配慮している。</p>		
	<p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>		

観点5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。

【留意点】
なし。

関係法令 (法)第117条 (設)第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学則等に、修業年限を5年（商船に関する学科は5年6月。）と定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	<p>◇学則等の該当箇所がわかる資料</p> <p>資料5-3-2-(1)-01 「修業年限を5年と定めている資料 (R2学生便覧P11)」</p>		
<p>(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	<p>◇定めている該当規程や卒業認定基準</p> <p>資料5-3-2-(2)-01 「卒業認定基準がわかる資料 (R2学生便覧P66-71)」</p>		
<p>(3) 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。</p> <p>■ 認定している</p>	<p>◇関係する委員会等の会議資料</p> <p>資料5-3-2-(3)-01 「卒業認定基準に基づき卒業認定がわかる資料 (◆実地審査閲覧資料)」</p> <p>卒業認定に関して内規に定めっているとおり教員会議によって厳正に評価判定し認定されている</p>		

<p>(4) 卒業認定基準を学生に周知しているか。</p> <p>■ 周知している</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p> <p>資料5-3-2-(4)-01 「卒業認定基準を学生に周知していることがわかる資料（R2学生便覧P66-71）」</p> <p>資料5-3-2-(4)-02 「卒業認定基準を学生に周知していることがわかる資料（R2教務ガイダンス資料）」</p> <p>卒業認定基準は卒業認定に関する方針に沿って学則及び、「学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」として定められ、学生に配布される学生便覧または教務ガイダンスによって学生に周知されている。</p>		
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>■ 把握している</p>	<p>◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料</p> <p>資料5-3-2-(5)-01 「学生の認知状況がわかる資料（R2アンケート）」</p>		

5-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

基準 5

優れた点			

改善を要する点			